



TITLE:

天界正誤表

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天界正誤表. 天界 1942, 22(248): 72-72

ISSUE DATE:

1942-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168324>

RIGHT:

てくれました。そして時には先方から、こゝはかういふ様にしてはと意見を述べてくれる様になり、大變に仕事に興味を持つてやつてくれて居りますので喜んでゐるのです」

大きな望遠鏡がドームの中で天を向いて、睨んでゐる様は實に美事である。特に先生の宅の位置は村での一番いい景勝の地で、その家柄が偲ばれるのである。

「清之進」——田舎の、此の村に行くと、あの有名な山本博士の名も、それ程に通つてゐない。

「山本博士の家は、どちらでせうか」學校の生徒さんに聞いて見ると、しばらく顔を見分せてその上で、恐らく、あすこだらうと推察してか、「清之進の家のことやらう」「それはあすこの高い家や………」といった工合であつた。

これは田舎の家についた名で、山本博士の家は清之進といふ名で通つてゐるのださうである。

4時前、先生と奥様とに別れて、ヒラリと自轉車に飛び乗つた筆者は、草津川を眞一途に、川の堤を下つて、下りの草津發の汽車に乗り込んだのであつた。

先生の天文臺は11月中には竣工する豫定ださうである。

田舎で悠々自適の先生の上に御多幸を祈つて止まない。(N. O. 生)

### 續“鳥か星か”

前略 田中氏の「鳥か星か」(本誌第245號第359頁)と云ふのに對しまして、自分も丁度八月3日の19時50分頃より20時40分迄、月面のスケッチを爲して居りました所、月の東邊より西方へかけて黒點の如きものが行くのを見ましたが、詳細に見ました所、鳥の様だと思ひました。田中氏は高倍率使用の爲、見あやまつたのではないかと思ひます。自分が用ひた倍率は64倍です。田中氏の誌上の疑問に對して御報せ迄。敬具

東京市 小林 義 惠

### 天 界 正 誤 表

第246號 (昭和16年十二月號)	誤	正
第367頁 編輯室より、第4行目	年末の	年來の
第247號 (昭和17年第1號)		
表紙第1頁 索引、月出月没 (大阪)	6—8	5—7
〃 〃 黒點の近況、太陽面の經緯度	5	8